

一 総括表一

◆ 事業計画

□ 地域の現状と今後の方向性

港南中央地域ケアプラザの担当エリア(上大岡、笹下、日野第一)は鎌倉街道・環状2号線・笹下釜利谷道路の大きな3つの幹線道路に面し、地下鉄やバス等の交通網は充実していますが、その反面、主要道路の左右は急な山坂で道路幅も狭く、車が通れない場所もあることから、高齢者・障害児者・乳幼児をもつ親にとっては、外出や買い物等がしにくい状況が見られます。また、どの地区も高齢化率は区平均を下回っていますが、丁目別に見ると30%を超える地域もあります。住民相互の助け合い活動である「福祉ネットワーク」に関しては周知不足や担い手不足などの課題はありますが、どの地区も早くから活動が実施されており、住民同士の支え合い活動の土壌ができています。

当ケアプラザの担当エリアが広いため、ケアプラザまで遠い方は足を運ぶ機会が少なく、ケアプラザの役割等の周知が十分行き届いていないことや、講座に参加できない現状があります。そのため、身近な場所での講座開催から居場所作り、そしてその場で出張相談につなげることで、日頃ケアプラザを利用しない方にも周知し、相談がしやすい関係づくりを行っていきます。また、地域と協働で身近な場所での住民同士の交流のきっかけづくり、見守りや、自立支援のための拠点となる場所(介護予防教室等)を作っていきます。

高齢者の方が増えるにつれて、認知症の方も増えることが考えられます。地域や中学校等に認知症サポーター養成講座を継続して開催することで、多くの世代の方に理解を広げることや、企業等からの依頼がある「認知症の方に対する具体的な対応方法」についての講座も開催をしています。企業からの依頼は潜在的にもまだまだ見込まれると考え、業務にて認知症の方への対応に悩まれている生活に密接した企業・商店等へ働きかけて、さらなる講座の開催へ繋がります。地域の方に限らず、企業等が、地域の一員として、認知症についてより理解が深まることにより、認知症の方と家族が、安心して生活することができるよう取り組みます。

また、高齢者の方が在宅生活を続けていくにあたり、介護保険だけではなく、医療機関との連携や、地域の方のゆるやかな見守り、介護保険外のサービスの活用など、様々な方との連携がより一層必要になってくると考えています。関係する方々と情報交換や困りごとの検討をする仕組みを作ることによって、高齢者の方が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるように取り組んでいきます。

地域福祉保健計画の推進については第4期の中間振り返りの年となります。コロナ禍が収束していく中、再開する地域活動を踏まえながら、支援チーム会議の場を設けて、地域の方とともに計画に沿った取組をチームとして実現できるよう支援していきます。

□ 今年度の重点的な取組

新規	継続	一具体的な取組内容一
□	■	身近な場所で居場所・拠点作りをすすめ、地域や近隣の区民利用施設等と連携して事業等を開催することで、日頃ケアプラザを利用しない方にも周知をすすめていきます。
□	■	Wi-fi、ホームページ、SNSといったICTを事業や会議等に積極的に活用し、新しい情報共有・交流について検討・実行していきます。
□	■	認知症になっても安心して生活が続けられる地域を目指すため、認知症の方やその家族への支援を行うと共に、認知症理解を深めるための活動を展開します。
□	■	災害時要援護者である障がい児者・高齢者と地域等を、「防災」等をキーワードにしてマッチングを行い、それを有事の備えと平時の見守りにつなげていきます。
□	■	包括が把握した個別相談とコーディネーターが把握する地域や福祉ネットワーク等の受け入れ状況を所内で調整しつつ、場合によっては地域ケア会議等で地域と共に検討を行い、5職種で連携して実際の支援につなげていきます。

◆ 事業報告・事業実績評価

☐ 振り返り

身近な場所での居場所作り/コロナ禍のあと、地域の方と協働で実施していた町内会館での介護予防講座や、マンションの共有スペースや寺・コミュニティーハウス等での地域の居場所作りが軌道にのり、振り返りをしながら次年度に向けて継続して実施できるようすすめた。

ICT活用/地域事業にZOOM配信に参加者が集まり、介護保険制度や利用の方法について。介護予防の啓発や医療情報の発信を行い、地域づくりの普及に努めるとともに集いの継続に寄与できた。

認知症関連事業(チームオレンジ事業を含む)/認知症マフ講座や認知症啓発講座の計画から事業開催まで職種間で連携して事業展開を図った。今ある事業の参加者と違う視点を持った住民と繋がり、チームオレンジを起点として連携を深める事ができた。既存の認知症カフェを開催する団体と、ラン伴の活動交流を促せた。

災害時の要援護者支援/区社協と行ったつながり事業で防災拠点訓練参加に参加することで障がい者と地域をつないだ。基幹センターと協働で災害時の避難について不安を持つ方を地域の町内会長・民生委員につないだ。

個別相談と地域・福祉ネットワークをつなぐ/介護保険サービスの利用とらなかった方も、コーディネーターと検討し地域の集まりや移動販売などにつなぐことで不安なく生活できるように支援することができた。包括レベルの地域ケア会議の開催には至らなかったが、個別ケースで上がった課題に対し、民生ケアマネ連絡会や民児協の中で”地域での見守り”に関して講座を行った。民生委員やエリアで活動するCMと一緒に”見守り”について考えることができた。今後の見守り活動や、協同でのサロン開催などに活かしていく。

☐ 区からのコメント

地域の課題やニーズから、町内会館やマンションの共有スペースなどを活用した地域の居場所づくりを支援して軌道にのせたほか、介護予防の啓発や医療情報の提供などICTを積極的に取り入れた事業展開を行っていただき、感謝いたします。

新たに地域活動を行う方々の相談にのって支援を行うだけでなく、区の事業であるひまわりプラン応援補助金の申請を後押しするなど、港南ひまわりプランの推進にも力を発揮していただいているほか、新たなイベントとして始まった「港南メディカルフェスティバル」の実行委員会メンバーとしても尽力いただきました。

認知症事業については、チームオレンジ事業にいち早く取り組み、市内での発表もしていただき、ありがとうございました。今年度の講座も好評で、銀行や郵便局との連携に関する話し合いもでき、認知症マフ制作の場などは今後も継続していただけると良いと思います。引き続き、よろしくお願いいたします。

また、権利擁護の観点からは、成年後見制度の申し立て支援だけでなく、生活困窮や生活支援課に繋いでいただくなどの幅広い支援を行ってくださっているおかげで、本人のみならず、ケアマネジャー等の支援者も、安心して包括支援センターに相談ができるようになってきていると思います。